

令和4年5月25日号

発行所/ (有)アミックス

〒957-0018 新発田市緑町 2-6-45-7 号棟

tel 0254-20-7841 fax 0254-20-7851 http://sop-web.com



「しばた」
を知って楽しみ、
「新しいしばた」
の町をつくる新聞

原料はすべて
自然由来です

高橋農園
（新発田市緑山1314）
TEL 0254-29-2287
http://takahashinouen.com/

コロナ後を見すえた 4年度予算が成立

財政調整基金(市の貯金)を確保しつつ、
バランスに配慮した堅実な市政運営

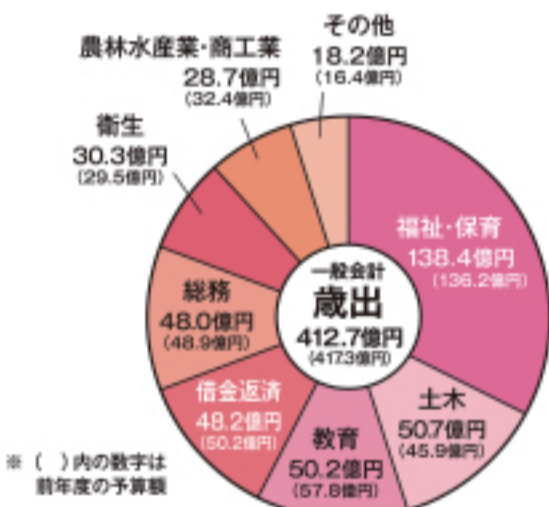
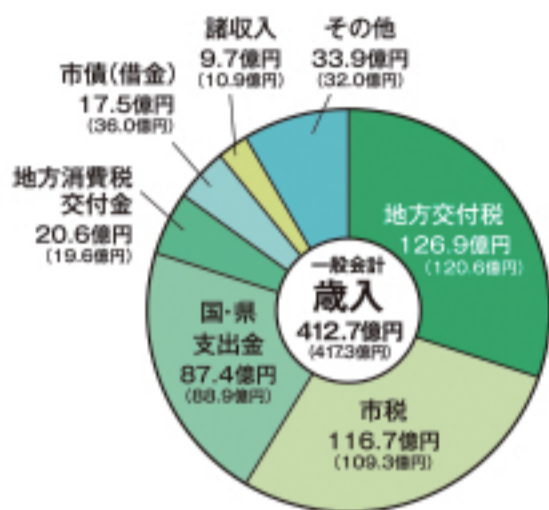
3月24日(木)、新発田市議会本会議において令和4年度の予算案が賛成多数で可決された。

二階堂市長は提案理由説明の冒頭で、「新型コロナウイルス感染症と闘いながら、コロナ後の新しい社会を見すえ、(市長の掲げる)当市の将来都市像である住みよみまち日本一 健康田園文化都市 しばた」を実現するために、四つの柱とする「健康長寿」「少子化対策」「産業振興」「教育の充実」による施策を、持続可能な健全財政を見すえた中で、より一層力強く推し進められる予算としたと述べた。

総予算額412.7億円で、昨年度より4億6千万円の減、一昨年度より1億7千万円の減である。

歳入については、軽自動車登録台数増など市税は大きく落ち込まないと思込んでいる。しかし、歳入全体の約28%であることは、市民の収入がまたまた少ないことを反映している。

令和4年度 新発田市の予算



※ () 内の数字は前年度の予算額

化する。

少子化対策

◎私立保育園運営委託事業、私立保育園支援事業、保育料等助成事業／二歳児の保育料無料化に伴い、保護者からの保育料収入が減少する私立保育園に対して委託料を増額する。

◎保育園業務システム推進事業／業務支援システム導入による帳簿の電子化などを進め、人材確保・離職防止につなげる。

◎児童クラブ運営事業／市内19カ所の放課後児童クラブ利用料を無料化する。

◎母子保健活動事業／かかりつけ保健師が支援する産後ケア事業において産婦人科を充実させる。▽選所型・訪問型を新設する。

◎社会参加応援事業／高齢者向けのスポーツ体験会を開催、TVゲームを用いた「脳トレ」を実施。また、市内高校などと連携、農業体験に取り組み、高齢者生きがいづくり・社会参加等を促す。

◎歯科健診・予防事業／(う)蝕・歯周病予防のための検診やフッ化洗口はすでに実施しているが、新たに希望者に歯科健診無料券を配布、オーラルフレイル予防指導を実施する。歯科条例制定の流れに添った事業である。

◎自殺対策事業／全国で若年層の自殺が増えていることから、相談・支援体制を強化する。

産業振興

◎有機農業産地づくり推進事業、地域農産物等ブランド化推進・輸出促進事業、SHIBATAブランドディング事業／内閣府の地方創生推進交付金を活用してオーガニックSHIBATAプロジェクトを実施、有機栽培などの取組を起すとして高付加価値・ブランド化を図り、輸出拡大につなげる。

◎地域おこし協力隊設置事業／有機米産地形成や獣害対策に2人、スポーツ＆カルチャー＆スタディーツーリズムを軸とした観光誘客や地域特産品の情報発信に2人を充てる。

◎有機資源センター長寿命化改修事業／加治川有機資源センターの長寿命化に向けた設計を行う。

◎中心市街地エリア空き店舗利

活用推進事業／中心市街地の賑わい創出のため、空き店舗の活用や創業支援は情報発信を進める。

教育の充実

◎小学校・中学校コンピュータ教育推進事業／校務推進システムを導入する(これにより教職員の事務作業時間が大幅に減少すると見られている)。

◎学校給食調理場再整備事業／豊浦中学校の給食を共同調理場からの配送に切り替えるための給食搬入口の整備工事をする。

◎自然災害防止事業／豊町一号公園地下に調整池を築造するための設計を実施する。

◎防災基礎整備事業／消防施設を整備し、排水ポンプ車など、必要な機器等を配備する。

◎コミュニティバス運行事業／市街地バス2台を更新するとともに、五十公野・赤谷区域区間の運行を見直し準備を進める。

◎民間企業との連携推進事業／(公用車として)新たに電気自動車を導入する。

◎自然災害防止事業／豊町一号公園地下に調整池を築造するための設計を実施する。

◎防災基礎整備事業／消防施設を整備し、排水ポンプ車など、必要な機器等を配備する。

◎コミュニティバス運行事業／市街地バス2台を更新するとともに、五十公野・赤谷区域区間の運行を見直し準備を進める。

◎民間企業との連携推進事業／(公用車として)新たに電気自動車を導入する。

◎自然災害防止事業／豊町一号公園地下に調整池を築造するための設計を実施する。

◎防災基礎整備事業／消防施設を整備し、排水ポンプ車など、必要な機器等を配備する。

◎コミュニティバス運行事業／市街地バス2台を更新するとともに、五十公野・赤谷区域区間の運行を見直し準備を進める。

◎民間企業との連携推進事業／(公用車として)新たに電気自動車を導入する。

◎自然災害防止事業／豊町一号公園地下に調整池を築造するための設計を実施する。

◎防災基礎整備事業／消防施設を整備し、排水ポンプ車など、必要な機器等を配備する。

◎コミュニティバス運行事業／市街地バス2台を更新するとともに、五十公野・赤谷区域区間の運行を見直し準備を進める。

◎民間企業との連携推進事業／(公用車として)新たに電気自動車を導入する。

◎自然災害防止事業／豊町一号公園地下に調整池を築造するための設計を実施する。

◎防災基礎整備事業／消防施設を整備し、排水ポンプ車など、必要な機器等を配備する。

◎コミュニティバス運行事業／市街地バス2台を更新するとともに、五十公野・赤谷区域区間の運行を見直し準備を進める。

◎民間企業との連携推進事業／(公用車として)新たに電気自動車を導入する。

◎自然災害防止事業／豊町一号公園地下に調整池を築造するための設計を実施する。

◎防災基礎整備事業／消防施設を整備し、排水ポンプ車など、必要な機器等を配備する。

◎コミュニティバス運行事業／市街地バス2台を更新するとともに、五十公野・赤谷区域区間の運行を見直し準備を進める。

◎民間企業との連携推進事業／(公用車として)新たに電気自動車を導入する。

◎自然災害防止事業／豊町一号公園地下に調整池を築造するための設計を実施する。

◎防災基礎整備事業／消防施設を整備し、排水ポンプ車など、必要な機器等を配備する。

◎コミュニティバス運行事業／市街地バス2台を更新するとともに、五十公野・赤谷区域区間の運行を見直し準備を進める。

◎民間企業との連携推進事業／(公用車として)新たに電気自動車を導入する。

コラム

あつという間に夏か。



五十公野公園のあやめ

ウクライナで戦争が始まった。ロシアが「ネオ・ナチの掃討」や「ロシア人の保護」を名目に始めた侵略である。▼キウウの近郊の町、ブチャで民間人が大勢殺されているのが発見された。戦争犯罪だという。その後、連日のように民間人の被害が報道されている▼報道は見てもおかなければならないと思いつつも、あまりのむごさに気力も萎えてしまう▼その上、3月頃から体調を崩し、一時歩くこともままならず、話しも聞き取りにくいと言われた。大好きな花見も出来ないまま、花は散ってしまった。しかし、今は何とか回復に向かっている。お医者さんと面談を見てくれた家族のお蔭である。せめて五十公野公園のあやめを楽しみたい▼動けなかった間は本を眺めていた。新発田・荒川に明治18年に生まれた宮崎郁雨の本や関連図書だ。実に興味深い人で、もっと知られてもいいのに、と▼郁雨は志願して砲兵隊に入隊して中尉になった自称「軍国少年」であり、軍人会館分会長にも就任している。敗戦後、どのような思いだったのか、次の歌を詠じた(「郁雨歌集」より)。

強引に押し通せば
一切が正義になる
ソウエト哲学

続けて、こんな歌もあった。

原爆を投ぐる非道も
千鳥をば盗(と)る不法をも
有(ゆる)す神かも

▼状況は変わっていないようだ。

「人助け」こそが天職、 新発田生まれの郁雨

先月号で来月故郷・荒川に歌碑が建立される宮崎郁雨（みやまきいくう）・明治18年（昭和37年）に紹介したように、思いがけず多数の反響があった。「石川啄木は知っているが、それを支援した宮崎さんが新発田（荒川）生まれとは知らなかった」「確かに郁雨の助けがなければ（啄木の）『一握の砂』はなかったかもしれない」「郁雨自身も歌人だったとは」「図書館と新発田は意外に近い関係だ」「新発田の文化人をもっと取り上げてほしい」等々。



宮崎郁雨（昭和33年6月1日）

本紙が注目するのは宮崎郁雨の「人助け」に捧げた並外れた情熱と実績だ。啄木への援助もその信条によったのではないかと、郁雨の年譜および自作の歌『郁雨歌集』からその軌跡を追う。

＊

まず、郁雨の父竹四郎が他人を助けることの由来を知るには、徳（わ）は、その仕合せが響いて、徳（わ）は、その位で済むのが好い、郁雨は「何十四回百回と聞いてきた（中略）私の脳裡に沁み込んで、成は私の一生を左右してゐるとはなにか」「雀三、屋平両男の上にも同様」「風録（第二巻第一輯より）と書いておこめ。

また、弟雀三は宮崎郁雨が啄木を知り合った当時の兄の本棚に、桐島栗川の信印本、其他神書」があったことを書き遺している（『風録』第二巻第四輯より）。「人助け」を遺

びとする郁雨の信条は、宗教的な影響もあつたかもしれない。

困窮者のための義学・鶴岡小学校に入学、郁雨自身が慈善のありかたを知る

郁雨は学齢に達した明治25年に無月無無入費の私立鶴岡小学校に入学した。父竹四郎は「かね久味嗜屋に社氏として勤めていて、また貧しく、金のかかる私立小学校に上がることが出来なかったのである。

授業料取めでもよき学校に通いし三年忘れざるなり

鶴岡小学校は初代渡邊熊四郎や平田文右衛門らの民間篤志家が設立した義学で、郁雨は民間慈善事業の恩恵を受けたのである。34年後、郁雨は大正16（昭和1）年4月に鶴岡小学校の監事となり、昭和4年の廃校時には校舍を慈恵院に購入させ、託児所などを作った。いわば恩返しである。

＊

石川啄木が図書館にきたのは明治40年5月5日『紅蓮香へ』に「まよひ」の編集にあたりつつ、同人から赤生尋常小学校代用教員の職を紹介された。郁雨らと知り合うも、郁雨は野道第七師団（勤務地新潟加）（2回）初入隊は明治38年）のために7月27日旭川に向かった。8月26日の大火で『紅蓮香』の原稿も失い、職場も失った啄木は9月13日に函館を去り、道内を転々として、翌明治41年4月24日に函館から上京した。

啄木の函館時代は啄木を尊敬しつつも友人として親しく付き合う仲間たちに囲まれて文学三昧の幸福な日々だったと言え、しかし、文壇仲間との平和な日々は長くは続かなかった。郁雨を除く多くは函館を去ったり、早や死にしたりした。

秀才（すさい）みな早く世を捐（す）して凡庸のわれ生きのこる
その首飾社（もくしゅくしゃ）

啄木については次のように詠んでいる。この凡庸すらに劣りし世すきして死にたるあはれ
秀才（すさい）啄木

この時期の郁雨は啄木への憧憬、それは文学的天才と恋の勝利者としてであったが、反面、生活者として自立できぬ啄木へは不満をぶつけながらも、援助を惜しまなかった。借金まみれの啄木に対し、個人としては最高額の1500円（現在の75万〜80万円程度）を貸している。しかし、啄木上京の費用や上京後の母や節子夫人ら自身

の借家に住まわせるなどの援助・費用は相当のもので、貸した額などは納まらぬ。このような援助が可能だったのも、父竹四郎が味噌製造業者として成功していたからである。竹四郎は函館の高額納税者一覽に載るほど経済的に成功し、しかも郁雨の啄木への援助を認めていたからだ。

ところが、郁雨39歳の時、大正12年に父竹四郎が没し、郁雨が跡を継いでからは兄弟の連続だった。順調だった父の事業も業を潰れてみれば何がしかの借財を抱えていて、返済するまで数年かかっている。

父逝きて三年やうやく
負債なき毎日（つこもり）に会ふとやや酔ひて寝る

父の借財を返済してからも味噌醸造業を維持し、一族七夫婦三十人の生計を得たのであるから、郁雨に経営の才能がなかったとばかりも思えない。郁雨の年下の友人阿部たつを「商売たつてやればやれる（阿部たつを著）啄木と郁雨」よりと評している。しかし、昭和8年8月に味噌醸造業を廃し、小売のみの店を出したが4年から5年でやめた。

おん後（あと）は十年守りぬ
この上は有（ゆる）し給へと
商人を捐（す）」

また、商人としての才能のなさを郁雨自身は何度となく嘆いている。

商人の家に長じて
銭儲（もう）けせむとねがはず
母泣かせける

自分の資質を商人に向いていないと、まるで自分に納得させるような歌である。

**天職である社会福祉事業「慈恵院」
常務として縁の下を力持ち**

郁雨が家業を廃したのは、自身の才能の有無というより、大正14年に慈恵院監事に選任されるなど、慈善事業に深く係わるようになって、そこに「いきがい」を見出したからである。昭和6年には慈恵院理事、昭和8年3月に慈恵院常務理事に選任されている。

慈恵院は二代寺井四郎兵衛（初代は新発田生まれ）、上田大法（新発田生まれ）、中山与七の3人が明治33年に設立した。身寄りのない孤児・老人を救済するのが目的だった。中山は「函館には孤児が多く、函館の外国の教会・修道院は孤児院を開いている。日本の孤児は日本人が面倒をみるのが筋」と主張、菩提寺の住職・上田と檀家の寺井が賛同したのである。

寺井は北洋漁業で財を成した経済人で、家訓の一つは「死に金を貯めるな」。寺井は赤字続きの慈恵院に商売でもつけた金をつぎ込み続けた。

開院15年目の大正4年には施設部を設けて困窮者に対する無料診療を開始、大正6年には大森町に小学校を設立し、困窮児童に対する無料の教育を行った。託児所、養老所などを開設し、病院もつくった。現在の函館中央病院など設けている。現在は函館厚生院に改組経歴、3つの病院、13の福祉施設、看護専門学校を運営するに至っている。

郁雨が常務理事になった直後の昭和9年には大火（死者338人、焼失約400ha）が発生、経営は困難を極めた。しかし、郁雨は自分の事業を廃してまで慈善事業に反対、理事長・小熊幸一郎（北浦原太郎代）の出費を助けて、戦争中の物資不足・世相険

<p>蟻塚税務会計事務所 新発田市大塚町 7-1-6 TEL.0254-23-2222</p>	<p>茨木建設(株) 新発田市長畑 284-1 TEL.0254-23-6851</p>	<p>介護老人福祉施設 陽だまり苑 新発田市南田 1746-1 TEL.0254-20-3800</p>	<p>(株)オオヌマ 新発田市五十公野 3899 TEL.0254-22-2223</p>
<p>飯豊電設工業(株) 新発田市豊町 2-18-5 TEL.0254-24-2134</p>	<p>新発田ニユール プラザホテル 新発田市南田町 1-9-29 TEL.0254-26-3131</p>	<p>複合型福祉施設 コンフィ陽だまり苑 新発田市南田町1-10-38 TEL.0254-24-1111</p>	<p>(有)アミックス 新発田市豊町 2-8-45-7号棟 TEL.0254-20-7841</p>
<p>(株)伊藤組 新発田市豊町 1273-1 TEL.0254-22-4176</p>	<p>新発田建設(株) 新発田市高塚 1842 TEL.0254-27-5711</p>	<p>新発田 旬を 新発田市御幸町1丁目1の1 ☎(0254) 22-2102(代)</p>	
<p>(株)イノウエ 新発田市新栄町 1-3-2 TEL.0254-22-4056</p>	<p>しばたバッカーズ(株) 新発田市奥山神保 427 TEL.0254-22-2334</p>	<p>四季折々の美味 割烹旅館 多奈可や 新発田市稲荷岡 2066 ☎0254-41-2013</p>	
<p>(株)岩村組 新発田市大手町 4-3-21 TEL.0254-20-5550</p>	<p>島津印刷(株) 新発田市高塚 1419 TEL.0254-27-2101</p>	<p>堀部安兵衛 生誕350年 記念出版</p>	
<p>SODデザイン 高橋昭志 新発田市豊町 2-17-26 TEL.0254-24-5121</p>	<p>(株)新和組 新発田市米倉 1287 TEL.0254-28-5011</p>	<p>もりいくすお漫画 「熱血 堀部安兵衛物語」 (A4・36頁) 1,000円+税 富澤信明論文集 「実録 堀部安兵衛」 (A5・360頁) 2,000円+税 —系図から読み解く 忠臣蔵—</p>	
<p>小野寺税務会計事務所 新発田市大塚町 2-7-7 TEL.0254-22-3497</p>	<p>大進電業(株) 新発田市佐々木 1895-8 TEL.0254-21-5000</p>	<p>発売所 高木書店 〒957-0052 新発田市大手町 1-2-13 ☎0254(22)3241 新発田市観光協会 〒957-0055 新発田市南田町 1-2-11 ☎0254(26)6789</p>	
<p>(株)下越道路 新発田市新富町 1-1-5 TEL.0254-23-2296</p>	<p>(株)大通 新発田市舟入町 1-12-5 TEL.0254-26-1191</p>	<p>「実録 堀部安兵衛」 (A5・360頁) 2,000円+税 —系図から読み解く 忠臣蔵—</p>	
<p>(有)クサカベモーターズ 新発田市五十公野 4838 TEL.0254-22-6311</p>	<p>フジマ舗道(株) 新発田市豊町 4197-3 TEL.0254-26-5030</p>	<p>「熱血 堀部安兵衛物語」 (A4・36頁) 1,000円+税</p>	
<p>(株)こじまホールディングス 新発田市中央町 3-5-12 TEL.0254-26-3361</p>	<p>扶桑畜産(有) 新発田市栄倉字橋 4886-1 TEL.0254-26-5136</p>	<p>「実録 堀部安兵衛」 (A5・360頁) 2,000円+税 —系図から読み解く 忠臣蔵—</p>	
<p>小林税務会計事務所 新発田市中央町 5-4-27 TEL.0254-22-2705</p>	<p>山田建設(株) 新発田市大友 3856 TEL.0254-25-0700</p>	<p>「熱血 堀部安兵衛物語」 (A4・36頁) 1,000円+税</p>	
<p>小柳産業(株) 新発田市八幡新田 416 TEL.0254-22-7010</p>	<p>(株)安田組 新発田市豊町 4-3-39 TEL.0254-24-1761</p>	<p>「実録 堀部安兵衛」 (A5・360頁) 2,000円+税 —系図から読み解く 忠臣蔵—</p>	

悪の中、奇るべき老人子どもたちを守りぬかれました」(阿部たつを著「啄木と郁雨」より)とある。

あるがままの郁雨にて足る名を挙ぐる如きは希(ねが)わず若き頃にも

若い頃もそして今も名を挙げぬことよりあるがまま「人助け」をしているのが自分に合っているのかは確かではないか。

昭和21年10月、函館慈恵院は改組されて社会福祉法人函館厚生院となった。私的救済機関から始まって福祉法人になり、郁雨

は閑職、権限のない顧問に回された。この時の郁雨は激しく落胆した。

園外にされれば半生を打ち込みし事業も夢のこと係わりなし

郁雨にとって慈恵院での日々がいかに充実していたかを物語っているのではないか。

新発田・荒川生まれ函館育ち、石川啄木の支援と縁生にわって顕彰事業を続けた宮崎大四郎郁雨。本質は父から受け継ぐ、身に沁み込んだ「人助け」の精神にある。それを

実現させたのは函館経済人の「世のため人のため」の気質と北洋漁業で得た経済力による援助にあることは明白だ。

函館経済人の気質について、阿部たつをは函館文化会会長の阿部平三郎の鶴岡学校に寄せた言葉として「先駆的、開拓的な仕事というものは、国や他所などでは始められるものではなく、民間有志の手によってのみ実行できるものである」とは、昔も今も変わりない(昭和44年8月5日付朝日新聞北海道版)を引いている。

繰り返すことになるが、宮崎郁雨の「人助け」精神は第一に父竹四郎の教え、第二に宗教的な影響、第三に当時函館経済人がすべからう行った慈善精神の一環と考えてもいいのではないか。

このたび、新発田城南・函館藤田西ロータリークラブによる故郷荒川(松浦保善園)に啄木・啄木の歌碑を建設する事業は、ロータリークラブの目指す「奉仕精神」と、何より宮崎郁雨の「人助け」精神に合致するものである。

6月12日(日)、松浦小学校敷地内に建立される啄木および郁雨の歌碑の除幕式が予定されている。式の模様は次号掲載の予定である。

フードバンクしばた 地球倫理推進賞受賞

活躍著しい「フードバンクしばた」が、第25回地球倫理推進賞「文部科学大臣賞」を受賞した。応募は国際部門14件、国内部門21件、計35件。6人の選考委員による3次にわたる厳正な審査の結果、国際部門は「シャンティ国際ボランティア会」、国内部門は「フードバンクしばた」が選ばれた。各部門、1件ずつの受賞である。

8月29日(火)、東京・都市センターホテルでの受賞式には、「フードバンクしばた」代表の佐藤哲也、副代表の土田雅雄の

西氏が出席した。

国際部門受賞の「シャンティ国際ボランティア会」は「共に生き、共に学ぶ」社会の実現を目指して、アジアが国々を通過した教育文化支援を40年間にわたって展開、図書館事業を中心に、学校建設、緊急人道支援、途上国の原料および製品の適正価格での購入事業などを行っている。

受賞後の報告で、山本英田事務局長は「教育が貧困にあえぐ子どもたちの人生を変え

ます。だからこそ教育を後回しにはできません」と述べた。

国内部門受賞の「フードバンクしばた」は平成28(2016)年3月26日の設立と歴史は比較的新しいものの、県内では「子ども食糧」を立ち上げるなど、時局を得た支援活動を継続的に取り組んできた。多くの企業や個人からの寄付が活動の支えである。

もともと、部活に使う運動靴やスポーツ用品が買えない子どもたち、家庭を支援したい、そして十分に食事がとれない子どもたちに食事を提供する「子ども食糧」(感染症予防のため休止中、代わりにお弁当配達)と活動は広がった。

現在は本来の「フードバンク事業」で貧困が際立っている母子家庭などへの食糧配給を柱に、教育・福祉の包括的な支援を約3000世帯に対して継続的に行っている。このほか、お弁当配達事業、就学に必要な物品を購入して届ける就学支援事業、就学支援を受けている世帯におコメを届ける「おコメ」プロジェクト、制服リサイクルバンク事業、学用品リサイクル事業、生活用品リサイクルバンク事業、ママの休養室「虹」訪問型育児保育「ママの、無料塾」しばた寺子屋、ナフキン配布事業、お母さんの相談室など、計12の事業を展開している。

本当に必要な支援を「個別」「直接」「継続」

問合せ
☎0254-20-8666
午前9時～午後5時

届け先 ☎957-0054
新発田市本町3丁目3番3号

振込先
新発田信用金庫本店
(口座番号) 普通 0479924
(口座名義) フードバンクしばた

して届けるのがモットーだ。受賞後の報告で、土田雅雄副代表は困難な現状を紹介した上で、「私どもの支援しているご家庭では月の食費が2万円に満たない家庭も少なくありません。コメどころ新米なのにおコメが買えないんです。それに子どもたちはストレスを感じています。そんなご家庭に安らぎを感じていただくために、食はもちろんです、それだけにとどまらず、生活に必要なありとあらゆるサポートをこれからも続けてまいります。人様のお役に立てることが、何よりも嬉しくて、楽しいんです」と続けた。

フードバンクしばたでは、寄付は現金ばかりでなく、おコメや野菜などの現物も受け取っている。しかし、野菜類などの日持ちしないものは時期がよくなって受け取れない場合もある。ホームページも活用して、お便りや送るお持ち込み前に事前に必ず電話などで相談するようになっている。

落谷虹児記念館開館35周年記念特別展

美人画

進化する——

YASUNARI IKENAGA KOJI FUKIYA
池永康晟 × 落谷虹児
Giclee Print

2022.4.26(火) ▶ 7.31(日) 9:00~17:00
(入館受付は16:30まで)

【休館日】月曜(ただし7月18日「海の日」は開館)
【入館料】一般・大学生 510円(団体20名様以上410円)、高校生 210円、小・中学生 110円

【主催】新発田市、新発田市教育委員会、落谷虹児記念館 【協力】ぎやらりい美術館(株)アートプリントジャパン

新発田市中区中央町4-11-7
電話&FAX 0254-20-1013

日頃の感謝を込めて!

大創業祭

開催期間 5/27(金) 28(土) 29(日)

お米の特売もあるよ!

新発田の旬がいっぱい!

TON TON

●新発田店 9:00~18:00
新発田市荒町1480
☎0254-20-2229

●松崎店 9:00~19:00
新潟市東区新松崎1-6-14
☎025-274-2229

心も体も喜ぶ健康になれる デイサービスセンター 陽だまり苑 ふえりあ

4月1日(金) オープン 皆様のご利用を心からお待ちしています

加齢や疾病による体の衰えを改善したい方が選ぶ ヘルスケア 3選

体喜ぶ **リハビリ**



理学療法士 小林 歩実
脳梗塞の回復期や呼吸器、循環器系疾患のリハビリを得意とする

体喜ぶ **健康トレーニング**



体を動かすことによって
転倒予防や身体機能の向上に繋がります

心喜ぶ **健康サポート**



管理栄養士、看護師や歯科衛生士が
健康面のサポートをします

歯科衛生士が
口腔ケアをご指導します



健康管理は看護師に
お任せください



気泡風呂



下肢筋力強化



新発田市富塚町2-4-13
0254-20-7726



新発田藩の歴史資料

令和4年度 春季通常展

4月9日(土) → 6月12日(日)

開館/9時~17時 月曜休館(祝日開館・翌日休館)

1階展示室 入場無料

次回予告 令和4年度 夏季企画展
古文書で読み解く 徳川将軍と溝口家
新発田藩溝口家に残された領地宛行状から、将軍と大名の関係をめぐる制度が整う過程や、政権継承のしくみが見えてきます。
期間/7月1日(金)~9月19日(月・祝)
1階展示室/入場無料

4代家綱権知朱印状

新発田市立歴史図書館 新発田市中央町4-11-27 ☎0254-24-2100

林家たい平 落語会

春風亭昇太

2022.7/3(日) 開場13:30 開演14:00

新発田市民文化会館大ホール

入場料 全席指定 A席2,500円 B席2,000円 ※未成年は入場不可

チケット 5/6 発売開始!

【主催・お問い合わせ】 新発田市民文化会館 TEL.0254-26-1576 〒957-0053 新発田市中央町4-11-7

【プレイガイド】 喫茶「紫音」(市民文化会館内) ■健康長寿アクティブ交流センター「きやり館」 ■新発田市観光情報センター(イクネスしばた MINTO 館内) ■豊浦地区公民館 ■紫雲寺地区公民館 ■加治川地区公民館 ■下越音楽鑑賞協会 ■セブンチケット

山形交響楽団 新発田公演

7/31(日) 16:00開演 (15:30開場) 新発田市民文化会館(大ホール)

2022年 入場料/全席指定2,000円 ※未成年は入場不可

プログラム メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲第1番、モーツァルト/交響曲第41番「ジュピター」ほか

プレイガイド 喫茶「紫音」(市民文化会館内) 0254-22-5726 ・新発田市観光情報センター 0254-26-6789 ・健康長寿アクティブ交流センター「きやり館」0254-22-1254 ・チケットぴあ

主催・お問い合わせ/新発田市民文化会館 〒957-0053 新発田市中央町4-11-7 TEL.0254-26-1576